ｉ－Ｒｅｐｏｒｔｅｒ自動帳票作成ソフト

外部仕様書

第１．０版

作成　　２０２４年１２月１０日

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検認 | 照査 | 作成 |
|  |  | 神田 |

【改訂履歴】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日付 | 版 | 改定内容 | 作成者 |
| 2024/12/10 | １．０ | 初版 | 立花エレテック　神田 |
|  |  |  |  |

目次

[**1.** **概要** 4](#_Toc181113494)

[**2.** **実行ファイルの起動方法** 5](#_Toc181113495)

[**3.** **設定ファイルの記述方法** 6](#_Toc181113496)

[3.1. **設定ファイル記述例** 6](#_Toc181113497)

[3.2. **設定ファイル項目一覧** 8](#_Toc181113498)

[3.3. **設定ファイル変換パラメータ** 10](#_Toc181113499)

# **概要**

本ソフトウェアは、シムトップス社製のi-ReporterとオプションのWebAPIを活用して、ユーザーの独自フォーマットによるCSVファイルから、作業前帳票の自動作成を行ものです。



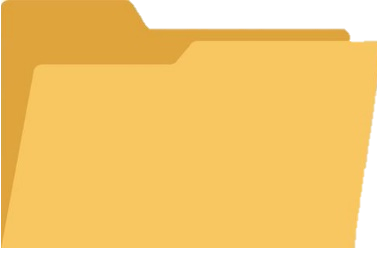
帳票管理者

**自動帳票作成**

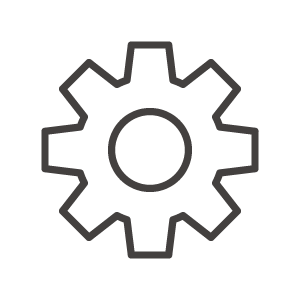
**アプリ**

作業指示保存フォルダ

ホスト





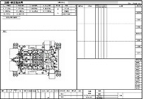


変換設定ファイル



帳票定義

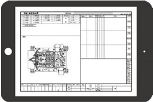






帳票入力者





CSVデータ差込済帳票

# **実行ファイルの起動方法**

【実行ファイル】

CSV2iReporter.exe　＜オプション＞

【オプション】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| オプション | 説明 | 省略時 |
| -pf | パラメータファイルを指定します | .\CSV2iReporter.json |

例）

parameter.json ファイルに従って実行する場合

CSV2iReporter.exe -pf parameter.json

# **設定ファイルの記述方法**

# **設定ファイル記述例**

設定ファイルはjsonフォーマットで記述します。以下は記述例になります。

{

"ConMasWeb": {

"Url": "https://ircloud-trial1.conmas-i-reporter.com/ConMasAPINF1FB/Rests/APIExecute.aspx",

"User": "conmasadmin",

"Password": "abcdef",

"ProxyServer": "",

"ProxyUserName": "",

"ProxyPassword": "",

"ProxyDomain": ""

},

"Log": {

"LogPath": ".\\Log\\Log-.txt",

"Level": "I"

jsonファイルの記述ルールでは’\’マークはエスケープ文字になるため、パスの階層を示す’\’マークは’\\’と記述します

},

"Convert": {

"DefTopName": "依頼伝票",

"InputPath": ".\\Request",

"InputFilePattern": "\*.csv",

"SuccessFileMovePath": ".\\Success",

"ErrorFileMovePath": ".\\Error",

"Encode": "UTF-8",

"HasHeaderRecord": true,

"RepTopName": "{7}\_{3:yyyyMMdd}\_{1}",

"LabelName": "[icon=1]溶解/{7}/{3:yyyyMMdd}/{1}",

"Delimiter": ",",

CSVファイルの3列目の日付をyyyyMMdd形式でラベルにします

"CsvColumn": [

{

"No": 3,

"DeteFormat": "yyyy/MM/dd",

},

CSVファイルの3列目を日付として取り込むフォーマットを指定します

},

"Remarks": [

{

"No": 2,

"Output": "溶解"

},

{

"No": 3,

"Output": "{7}"

},

{

"No": 4,

帳票備考５にCSVファイルの1列目を書き込みます

"Output": "{4}"

},

{

"No": 5,

"Output": "{1}"

},

{

"No": 10,

"Output": "溶解"

シート番号３にデータを転送します

}

],

"Sheet": [

{

"No": 3,

"Cluster": [

{

"Id": 0,

"Output": "{1}"

シート番号３のクラスターID０にCSVファイルの１列目のデータを書き込みます

},

{

"Id": 1,

"Output": "{2}"

},

{

"Id": 2,

"Output": "{3}"

},

{

"Id": 3,

"Output": "{4}"

},

{

"Id": 4,

"Output": "{5}"

}

]

}

]

}

}

# **設定ファイル項目一覧**

以下に、設定用jsonファイルの記述パラメータを記載いたします。項目の親子関係はインデントにより表現しております。

フォルダ区切りに使用する“\”マークは、“\\”と記述する必要がございますので、ご注意ください。

| 項目 | 型 | 必  須 | 説明 | 規定値 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ConMasWeb |  | 〇 | i-Reporter API サーバに関する設定ブロック |  |
| Url | String | 〇 | Web API サーバのサーバ名またはIPアドレス |  |
| User | String | 〇 | Web API サーバへのログインユーザ名 |  |
| Password | String | 〇 | Web API サーバへのログインパスワード |  |
| ProxyServer | String |  | プロキシサーバを経由する場合に記述。アドレスとポート番号  例) 192.168.0.239:8080 |  |
| ProxyUsername | String |  | プロキシサーバを経由する場合に認証するユーザ名を指定 |  |
| ProxyPassword | String |  | プロキシサーバを経由する場合に認証するパスワードを指定 |  |
| ProxyDomain | String |  | プロキシサーバを経由する場合に認証するドメイン名を指定 |  |
| Log |  |  | ログファイルに関する設定ブロック |  |
| OutputPath | String |  | ログファイルの保存先及びファイル名  （ログファイル名には日付毎にyyyyMMdd形式の接尾辞が付加されます） | “.\\log\\Log-.log” |
| Level | String |  | ログファイルの出力レベルを設定します  “f”または”5”:致命的エラーのみ “e”または”4”:エラー以上 “w”または”3”:警告以上 “i”または”2”:情報以上  “d”または”1”:デバッグ以上 “v”または”0”:ログファイルを出力しない | “i” |
| Convert |  | 〇 | i-Reporter変換設定情報ブロック |  |
| DefTopName | String | 〇 | 作成される帳票の元になる帳票定義名  ※大文字、小文字は区別されます  DefTopNameとDefTopIdのいずれかは必須  同じ帳票定義名が複数ある場合は、更新日付が新しい帳票定義が自動的に選択されます |  |
| DefTopId | Numeric | 作成される帳票の元になる帳票定義ID  DefTopNameとDefTopIdのいずれかは必須  DefTopNameとDefTopIdの両方記載した場合、DefTopIdはDefTopNameよりも優先されます |  |
| InputFilePath | String |  | 変換元ファイルが保存されたパス | “.\\Input” |
| InputFilePattern | String |  | 変換元ファイル名パターンを指定します  ファイルは更新日付が古いものから処理されます | “\*.csv” |
| OutputFilePath | String |  | 自動帳票作成用CSVファイルの出力パス及びファイル名。（指定があれば出力されます） |  |
| OutputFileName | String |  | 自動帳票作成用XMLファイルのファイル名 | “{DefTopName}\_{FileDate:yyyyMMddHHmmss}.xml” |
| SuucessFileMovePath | String |  | 変換正常終了後のCSVファイルの移動先パス | “.\\Success” |
| ErrorFileMovePath | String |  | 変換異常終了後のExcelファイル移動先パス | “.\\Error” |
| Encode | String |  | 入力CSVファイルと出力XMLファイルの文字エンコードを指定します  “utf-8” :UTF-8  “shift-jis” :シフトJIS  “unicode” :Unicode  “euc-jp” :EUC  “iso-2022-jp” :JIS | “utf-8” |
| HasHeaderRecord | boolean |  | CSVファイルの先頭行のヘッダ行有無  “True”:ヘッダ行あり  “False”：ヘッダ行なし | “False” |
| RepTopName | String |  | 生成される帳票名称。帳票名称には「*3.3設定ファイル変換パラメータ*」の記述を利用する事が可能  例） {DefTopName}\_{1}\_{2}\_{DateTime} | "{DefTopName}\_{RowNo}\_{Now:yyyyMMddHHmmss}" |
| LabelName | String |  | 生成される帳票のラベル名。ラベル名には「*3.3設定ファイル変換パラメータ*」の変換を利用できます。また、ラベルはセミコロンで区切ることで複数定義することができます  ラベルアイコンは左から1～10で規定値は1    例えばラベルの先頭に「[icon=8]」と記述すると緑色のフォルダ型アイコンが選択されます  例) 複雑なラベル設定(2つ、かつアイコン指定)  [icon=8]配合/{1}/{2}/{3};{4}/[icon=4]{date} |  |
| Delimiter | String |  | “,” :カンマ  “tab” :タブ文字  “|” :パイプ  “;” :セミコロン | “,” |
| CsvColumn |  |  |  |  |
| No |  |  | 日付形式を変更したいCSVの列番号 |  |
| DateFormat |  |  | ***No***で示す列番号を日付形式で取り込むためのフォーマット文字列を指定します。  フォーマット記述方法は下記サイトを参照ください  <https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/custom-date-and-time-format-strings> |  |
| Remarks |  |  |  |  |
| No | Numeric | 〇 | 帳票備考番号を書き込みたい帳票備考番号を指定します(1～10) |  |
| Output | String | 〇 | Noで指定した帳票備考への出力値を指定します  出力値には「3.33.3**設定ファイル変換パラメータ**」に示す値が設定可能です |  |
| SystemKeys |  |  |  |  |
| No | Numeric |  | システムキーを書き込みたいシステムキー番号を指定します(1～5) |  |
| Output | String |  | Noで指定したシステムキーへの出力値を指定します  出力値には「3.33.3**設定ファイル変換パラメータ**」に示す値が設定可能です |  |
| Sheet |  |  |  |  |
| No | Numeric |  | クラスタに値を書き込むシート番号を指定します(1～) |  |
| Cluster |  |  |  |  |
| Id | Numeric |  | 値を書き込みたいクラスター番号を指定します(0～) |  |
| Output | String | 〇 | 指定のクラスタに書き込む値を指定します  出力値には「3.33.3**設定ファイル変換パラメータ**」に示す値が設定可能です |  |

# **設定ファイル変換パラメータ**

生成される帳票の名称（RepTopName）や設定するラベル名（LabelName）には以下に示す変換パラメータを利用可能です

| 変換パラメータ | 説明 | 帳票名  帳票備考  システムキー  帳票ラベル  クラスター値 | 出力ファイル名 |
| --- | --- | --- | --- |
| {DefTopName} | 帳票定義名に変換されます | 〇 | 〇 |
| {DefTopId} | 帳票定義IDに変換されます | 〇 | 〇 |
| {FileName} | 入力CSVファイル名(拡張子なし) | 〇 | 〇 |
| {FileDate} | 入力CSVファイルの更新日時を示す文字列に変換されます  フォーマットは”yyyy/MM/dd HH:mm:ss”となります | 〇 | 〇 |
| {FileDate*:Format*} | 入力CSVファイルの更新日時を示す文字列に変換されます  “:”の後ろに日付フォーマットを指定します。フォーマットについての詳細は「3.3.1**日付フォーマットについて**」を参照してください。 | 〇 | 〇 |
| {Now} | 現在日時を示す文字列に変換されます  フォーマットは”yyyy/MM/dd HH:mm:ss”となります | 〇 | 〇 |
| {Now*:Format*} | 現在日時を示す文字列に変換されます  “:”の後ろに日付フォーマットを指定します。フォーマットについての詳細は「3.3.1**日付フォーマットについて**」を参照してください。  “{FileDate}”のみを記載した場合、”yyyy/MM/dd HH:mm:ss”となります | 〇 | 〇 |
| {RowNo} | CSVファイル内のデータ行番号に変換されます  フォーマットは”d”となります | 〇 | 〇 |
| {RowNo*:Format*} | CSVファイル内のデータ行番号に変換されます  “:”の後ろに数値フォーマットを指定します。フォーマットについての詳細は「3.3.2**数値フォーマットについて**」を参照してください。 | 〇 | 〇 |
| {1～n} | CSVファイルデータの1～n列目の値に変換されます | 〇 |  |
| {1～n*:Format*} | CSVファイルデータの1～n列目の値に変換されます  “:”の後ろに数値フォーマットを指定します。フォーマットについての詳細は「3.3.2**数値フォーマットについて**」を参照してください。 | 〇 |  |
| {h} | CSVヘッダがある場合のヘッダ部の列名を指定してCSVファイルデータの該当列の値に変換されます | 〇 |  |
| {h*:Format*} | CSVヘッダがある場合のヘッダ部の列名を指定してCSVファイルデータの該当列の値に変換されま  “:”の後ろに数値フォーマットを指定します。フォーマットについての詳細は「3.3.2**数値フォーマットについて**」を参照してください。 | 〇 |  |

# **日付フォーマットについて**

以下に、代表的な日付フォーマットについて記載します。

|  |  |
| --- | --- |
| 文字列 | 表示される値 |
| yyyy | 西暦４桁 |
| yy | 西暦２桁 |
| MM | 月３桁 |
| dd | 日２桁 |
| HH | 時刻（時）２４時間 |
| Mm | 時刻（分） |
| ss | 時刻（秒） |
| ff | 時刻（1/100秒） |

上記以外のフォーマットについては下記サイトを参照

＜標準の日付指定文字列＞

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/standard-date-and-time-format-strings>

<カスタム日付指定文字列＞

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/custom-date-and-time-format-strings>

# **数値フォーマットについて**

以下に、代表的な数値フォーマットについて記載します。

|  |  |
| --- | --- |
| 文字列 | 表示される値 |
| F<n> | 必要に応じて負の符号が付く整数と小数。<n>を指定するとn桁の固定少数が表示される  例)  書式指定： ”F4”  入力数値： -123.45  表示： -123.4500 |
| N<n> | 必要に応じて負の符号が付く桁区切りの整数と小数。<n>を指定するとn桁の固定少数が表示される  例)  書式指定： ”N4”  数値： 1234.567  表示： 1,234.5670 |
| 0 | ゼロ埋め標記  例)  書式指定： ”0000.0000”  入力数値： 123.45  表示： 0123.4500 |

上記以外のフォーマットについては下記サイトを参照

<標準の数値指定文字列＞

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/standard-numeric-format-strings>

＜カスタム数値指定文字列＞

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/custom-numeric-format-strings>